

六期生

衆しかつたあの頃

山中 将司

卒業以来最早々年余りの歳月を経た今日  
過ぎし日の事を思い出すこと大に感ずる  
を感ずると共に一糸の耕しを覚ゆる様  
である。というよりは高津時代のクラブ活動  
が良きにつけ悪しきにつけ自家に残り、今  
考へれば何でもなかつた。些細な当時の  
出来事の一ツ一ツが鮮やかに我々の脳裏に  
刻み込まれていて、いさゝかえ、クラブに  
の時代は今日の隆盛に比し、かえ、クラブに  
とつて全く苦しい時代だつたといふ事。  
常に部員の不足に悩まされ先輩諸氏の熱心  
なる指導で練習はやり乍ら所謂体系的な熱心  
のがなく華々しい成果を挙げ、事が出来な  
かつた次第です。併しとにかく今から当時  
を振り返ると総て衆しかつたという一言に  
尽さる様です。この言葉で表現出来ない様  
な衆しさという事を現在の現役のクラブ員  
諸君にも感じて欲しいと思つて置きます。私共  
同年のクラブ員の高津時代に演じた種々  
のエピソードを挙げ様と思つて置きます。又  
に、表わす事出来なない様に思ひます。  
この様なクラブ誌を作る事が出来るのは、ク  
ラブが順調に発展して、いさゝか事を証明するに

他がらぬ事だと思ひます。最後に立派な先  
輩を持ち又立派な伝統を受け継ぎ、輝やか  
い成果を挙げ、てくれる後輩諸氏に對して御  
礼を申し上げる次第です。  
完

七期生

一九五二年九月〜一九五五年三月

私のハンドボール生活

松田一彦

始めに期間として一九五二年九月と書いた理由は、私が九月よりハンドボール部に入つたからだ。同期生の内、既に私よりも前に入つていたのは、後に関学大に進み現在丸善石油に勤務している榎本君、同じ大前に進み現在は津田鋼材にいる宮崎君、途中三年生で止めた大和証券の広田君であつた。私が九月に入つて約一週間の練習で初めて対外試合があつた。対生野高専である。その頃私は初めての試合、故要領を得ずうろうろとフアードの一人として頭数を揃えていた様な印象としてのみ記憶している。当時のフアードは、二身山中和泉北中、一年榎本私田であつたと思う。結局対生野高専試合の成績は五―二位で敗れた。其の後一―二試合対外試合をしたと思つたが、記憶が明確でないの、省略するが印象深く記憶されているのは、一年大会での成績である。

沖一回戦は山本高校との試合であるが、それまでに確か不戦勝が一つあったと記憶している。山本高校には簡単に勝ち、次の試合は三島野高校であった。この試合も大勝であったと思う。此の試合に勝つて準決勝に進出したが鳳高校であったと思うが敗れてしまった。しかし府下 Best Four に進出した事は当時の部の意気を少なからず高揚したものだ。この時の一年生大会では最初メムバーを整えるのに苦労した。後に閑学のリギョーキーパーとして全日本大会にも活躍し全国制覇を為しとげた津田君はこの時から入部することになったのも誠に面白い事だが彼は一身大会では Forward として参加している。因みにこの大会では現在あまり顔を見せないが同期の向では未だ未だ記憶に留められている中面君、鏝君等がキーパーとして活躍した。同じ身新人大会でもたしか Best Four に残り次の大会からシード校として組合わせに残った事がある。当時の意気は誠に高らかで同期の堀尾君の Council of Four で岸和田高校に遠征した事がある。当時岸和田高校と云えば常勝豊中高校と肩を並べる程の強豪で我々は大いに fighting spirit を以て同 team と当った。試合は前半後半共シューティングゲームで残り一、二分迄一兵を争う試合であったが結局六一五で惜敗し

たが岸和田高校 team も我々の健斗を讃えてくれたものだ。其の後八尾高校等と二、三回我々がランドにて対抗試合をしたのだがこれらは全部勝利を浴め府下高校大会では常に 1st place として上位進出を期待されていたものだ。この頃七人制ハンドボールが日本にも紹介され大会もこの七人制が府立体育館にて屢々催される様になった。この頃より三年生に入り所謂高澤の伝統で大学受験という名目で部の種々の事務等を二年生の宮山君丸山君面田君等の後輩に受継いだ。尚参考迄に一年生と二年生の前半迄は濃紺のジャージ、後二年生の向 Queen のジャージに変えたがこのジャージの色決定で皆の意見が喰い合い結局は Queen に決定する迄大分時間がかかったのを思い出す。



無我の練習

西田 武彦

どうも御無沙汰を重ねて居ります。小生の方は、元気に仕事をしています。目下仕事は、相似形電子計算機作り、会社は昭和電子と似た日立の子会社。住居は独身寮で会社のすぐそば。ところは東京の回分